

今年度は、リーダー層の研修を充実させ、その中で、様々な課題に向き合う体制づくりを行った。外部講師を招いて、2回に分かれての宿泊研修や、グループ討議、福祉関係の講師だけでなく、他業種の第一線でリーダーとして活躍されている方からの話を伺うなど、個人のレベルアップだけでなく、組織力を向上させる点でも大変有意義な研修であった。

もう1点は、制度改正に向けての準備を進めるという課題であったが、報酬改定の時期が遅れたことで、いろいろと検討したことを年度末になってあわてて見直したという状況であった。今後も制度の影響は受けることになるが、日頃からしっかりと準備していくことで、備えていきたい。

今年度の大きなトピックとしては、アクティブ福祉in東京'14で4題の発表が選出され、堂々と発表でき、その中の2題が、最優秀賞である東京都福祉保健局長賞を受賞したことである。これは施設内研究発表会を継続してきたことなど、職員の日々のサービス向上に対する取り組みを評価していただいたことであると思う。職員の努力に感謝し、拍手を贈りたい。

### 1. サービスの向上について

昨年から取り組んでいる、接遇に関しては、個々の関心が高くなり、各自が個人的に気を付けるようにしていることで、組織全体の意識の向上がみられている。これからも継続していくことが必要である。

特養においては、リーダーの研修を通して、各課の協力が大切であることを学び、より一層協力体制が整ってきている。様々な課題に、課を超えて取り組む姿がみられサービスの向上につながっている。

### 2. 業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上

職員の負担軽減という点で、トイレのエアコン設置は職場環境が見直され、働きやすい環境になっている。タブレット端末によるIT化や、ヒヤリハット報告書の見直しなどは、継続課題となった。

今年度計画していた、LED化と空調（冷温水システム）の改修は、申請していた補助金が採択されなかったことで、見送りとなったことは残念であった。

### 3. 地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実について

地域包括支援センターが中心になって進めてきた、地域の自主グループへの応援については、体操クラブへの場所提供だけでなく、近隣のサロンへの協力も進めることができた。事業所のいろいろな部署の職員がかかわることで、地域を知り、地域の方々との交流ができてきていることは、今後の地域での活動に大きなプラスになると思われる。

### 4. 法人・施設の健全運営について

今年度も、千葉事業所との法人経営委員会を開催し、相互の情報共有を図ることができた。相互の状況を確認し、課題についても検討しあうことで、法人としてのレベルアップにつながっていると思う。より一層の協力体制を確立していきたい。